

「長野県の金融経済動向」（7月）の前回との比較

2015年7月

2015年6月

（総論）

長野県経済は、生産の一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復しつつある。	長野県経済は、生産の一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復しつつある。
--------------------------------------	--------------------------------------

（各論）

公共投資	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。
住宅投資	底堅く推移している。	底堅く推移している。
設備投資	緩やかに増加している。	緩やかに増加している。
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。
生産	一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復している。	一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復している。
雇用・所得	着実な改善が続いている。	着実な改善が続いている。

1. 実体経済

（生産）

IT関連	半導体関連および電子部品は、自動車関連に弱さが残るものの、スマートフォン向け需要の好調さを受けて、生産は改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある。	半導体関連および電子部品は、自動車関連に弱さが残るものの、スマートフォン向け需要の好調さを受けて、生産は改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある。
自動車関連	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	国内向けで一部に弱さがみられるものの、北米向け等の海外需要の堅調さを背景に、生産は高めの水準で横ばい圏内の動きが続いている。
機械・同関連部品等	工作機械は、中小企業の設備投資姿勢の慎重さが後退しているほか、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。計器は、自動車向け等の需要が増加しつつあることから、生産は持ち直している。バルブは、足もと減少しているものの、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。	バルブは、プラント向け需要が増加していることから、生産は足もとでは増加している。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。工作機械は、中小企業の設備投資姿勢の慎重さが後退しているほか、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。計器は、自動車向け等の需要が増加しつつあることから、生産は持ち直している。
飲料	弱い動きもみられるが、緩やかに持ち直している。	弱い動きもみられるが、緩やかに持ち直している。

(個人消費)

大型小売店 売上高	5月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。	4月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。
家電販売	5月は一部に持ち直しの動きがみられることから、全体としては前年を上回った。	4月は一部に持ち直しの動きがみられ、全体としては前年を上回った。
自動車販売	5月は前年を下回った。	5月は前年を下回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負額	5月は県、独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。	4月は県、独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。
住宅着工戸数	5月は持家、貸家、分譲が減少したことから、前年を下回った。	4月は持家、分譲が増加したものの、貸家が減少したことから、全体では前年を下回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、5月は新規求人数が増加していることから、回復傾向にある。所得面では、4月は一人当たり名目賃金が前年並みとなった中、常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。	有効求人倍率をみると、4月は新規求人数が増加していることから、回復傾向にある。所得面では、3月は一人当たり名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。
-------	---	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	5月は前年並みとなった。	4月は光熱・水道や食料、住居が上昇したことを主因に、前年を上回っている。
-------------------	--------------	--------------------------------------

2. 金 融

貸 出 金	5月は前年を上回っている。企業向けは、運転資金需要に一服感がみられるものの、設備資金需要に持ち直しの動きが広がっている。個人向けは、概ね横ばいで推移している。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	4月は前年を上回っている。企業向けは、運転資金需要に一服感がみられるものの、設備資金需要に持ち直しの動きが広がっている。個人向けは、概ね横ばいで推移している。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	5月は個人・法人預金ともに、前年を上回って推移している。	4月は個人・法人預金ともに、前年を上回って推移している。